

第 17 回富山地区学校再編検討委員会 会議録

日時 平成23年7月12日(火) 午後7時
会場 富山公民館 講義室
出席委員 23名
欠席 なし
傍聴 なし

1. 開会

2. 委員長あいさつ

17回目を迎える検討委員会ですが本日の第1号議題であります富山地区の小中学校のあり方について、小中一貫校にしたら良いのか。あるいは中学校再編が良いのか色々と難しい問題もあろうかと思いますが皆様方と検討して富山地区の学校再編の方向が出せればと思います。大変ですがよろしくご検討お願い致します。

3. 教育長あいさつ

新しい委員で構成されまして2回目ということで当会議の方も宜しくご審議いただきたいと思います。すでに専門部会の方でもいろいろと協議が進められていると思います。改めて御礼申し上げます。前回提案させていただきました小中一貫について疑問等ありましたら承りますので時間に限りがあるかと思いますがよろしくご協議の程お願い申し上げます。

4. 報告

(1) 第16回会議検討結果報告について

質疑等なし

(2) 平成23年度専門部会検討状況報告について

各専門部会の部長、副部長の紹介後検討状況報告。

通学支援 バスの台数を3台と仮定した中で通学の運行経路と乗車箇所と幼稚園を含めた中で小学校低学年、中学年、高学年、中学生の運行ダイヤ等の検討を進めている段階です。

学用品 幼稚園の園児服の問題。これから統一する中で、今値段が違う、購入業者が違うといった問題がある。自分達では難しいので何か指導してもらえればと思います。あとは順調に進んでいます。

P T A 岩井小、平群小 P T A の会則の違いをそれぞれ会則・規約を持ち寄り、次回会議ですり合わせを行います。

校歌校章 来年度からの校歌は、新しい小学校独自の校歌というよりも小中一貫を見据えて小中共に歌える校歌を何とか作れないものかと考えております。

また、校章も小学校独自のデザインではなく、小中一貫を見据えた話で進めております。

そこで独自に校歌校章部会を開き、校歌製作依頼方法や校章の公募手順など白浜地区の手順を参考にして詰めていきたいと考えています。小中一貫を見据えた校歌校章ですので富山中学校の委員も入った方がいいのではないかという意見もありますので、これから検討して事務局と相談しながら進めていきたいと思ひます。

行事 今年度の運動会、修学旅行、宿泊訓練などの特に大きな行事を中心に確認だけ致しました。細かいすり合わせはこれからです。

カリキュラム 行事との関連が非常に多いので、場合によっては行事部会とカリキュラム部会を一緒に開催し話し合いたいと思ひます。

専門部会からの報告について特に質問なし。

5. 議事

事務局 傍聴人なし。

委員長 第1号「富山地区小中学校のあり方について」を議題と致します。事務局より説明をお願いします。

事務局 資料2「学校再編・校舎建設と一貫教育開始までのフロー（素案）」の説明。
資料1「小中一貫校のメリット」の説明。

委員長 ただいまの説明につきまして質問意見ありますか。

委員 P T Aや保護者の集まりで小中一貫についてどんな話が出たのか聞かせてもらいたい。

委員 平群小学校P T Aで数日前に家庭教育学級を行いました。その後、保護者に小中一貫校について教育委員会から提案されたことを説明しました。その中で保護者に賛成反対どちらかと聞いたが小中一貫校と言うのが漠然としていて、現段階ではどちらとも言えないとの話でした。また前回の専門部会に出席した他のP T A役員からも小中一貫はすごく良いというような説明しかなかったので、先に小中一貫を行っている他の学校ではデメリットは出てきていないのかと言う話も聞かれた。

委員 富山地区では小中一貫校の話が進んでいるが、内房地区の中学校再編計画はあるのか。また富浦・三芳地区も小中一貫校で進めていく計画なのか。

事務局 デメリットに関して、長狭学園が始まる前に保護者の方が一番心配していたのが上級生による下級生のいじめでした。教員もそれを心配しながら指導を進めていく中で、逆に上級生に低学年の面倒を見させる事で上級生としての自覚を持たせることが出来るのではないかということで進めていきました。他の学校や今度の学校でも全く無いとは言い切れませんが、私が見てきた2年間でその問題は皆無でした。逆に下級生を思いやり昼休みに肩車して遊んでいる姿な

どを見ると非常にプラスだったと思います。

もうひとつ、小学生用と中学生用プールの深さが違うなどの施設の問題については教育委員会と協議し工夫することにより対応できたのでデメリットとして挙げませんでした。

あと、保護者や教職員からも挙がりました小学校6年生のリーダー性の問題ですが、こちらも1年生の給食指導をさせたり集会を6年生まででやったり工夫することにより対応できたのでデメリットで挙げていません。

小中一緒とのことで教員の意識改革や行事・PTAの融合など大変ですが、大変なのは教員なので子供達には特に関係ないのでそれもデメリットからはずしました。

では、何がデメリットかと考えると特にありませんでした。

もし不明な点がありましたら答えますので質問していただければと思います。

教育長

内房地区3校の中学校の統合については考えていません。

三芳小中学校については施設分離型の小中一貫校として3年研究が終わりまして4年目に入っております。小中学校の研究の結果、小中一貫校の方向で地区の方にも概ね理解していただいていると思っています。

富浦小中学校については全く白紙の状態です。

富山小中学校については小中一貫校の良さを活かした教育を展開していけるのではないかと思います提案させていただきました。

委員長

前は小学校の統合後、次に中学校の統合という市の説明だったが、小中一貫校であれば中学校の統合は当面考えなくて良いのか。

教育長

白浜中学校は校舎を新しく建てたので補助金の関係上少なくとも10年間はそのまま継続。今年度より推進する旧千倉町・丸山町・和田町については中学校の保護者にも入っていただき小中学校のあり方について議論していただくつもりです。

委員

人数が増えれば子供達にとって良いとのことで小学校の統合について賛成してきたが、ここに来て中学校は他と統合せずに小中一貫校でいくとの極端な方向転換に対し我々が協議してきた17回もの会議に意味はあったのか。

教育長

納得いかない部分があるのは申し訳ない。しかし、2つの小学校が統合されてもやはり小規模校でしかない地区の現実がある。中学校も小規模校である中で最大限教育効果を上げていくためには別々の小学校中学校よりは小中一貫教育の方が期待できるのではないかと思う。それは方向転換ではなく、15回の会議で小学校が統合されその発展として小中一貫が考えられました。長狭学園も3つの小学校の統合から始まっていますので小中一貫校の進め方とすれば同じような経緯を辿っているとご理解いただきたいと思います。

委員長

難しい問題ですが色々と意見を出していただいで解決していきましょう。

教育長 小学校の通学距離について、30年代に2キロ以内というのがありましたが最近では交通状況の改善等により通学時間1時間程度というような議論も出てきています。それを踏まえたとしても子供の負担を考えるとこれ以上の統合は難しいと思います。中学校については将来安房全体の生徒数が減ってきた時に果たしてどんな知恵が出てくるか今は分からない。

委員 小学校統合の話がまとまり進めていく中で中学校との小中一貫校の話が出た。前の説明と話が違ふとの意見が出たが私が一番感じ必要と思うのは、中学卒業までは地域の中で子供達も育った方が良いと思う。折角建てるのなら小学校と中学校が一体となったものを建てて、富山の子として色々な事を学んで、それから高校で広い視野の元に仲間と競い合い人格設計していくのが良いと思う。また、時間も大事な要素でもあるので通学のために時間をとられるよりは、その大事な時間を少ない人数ながらも濃い内容で育めるものがあると思うので一貫校が良いと思います。ただ、現役で子供を持つ保護者の方からやはり生徒数が多い中学校で子供を育てたいという意見が多いのならば一貫校ではなく遠くバスで通う高校のような中学になっても仕方が無いと思う。保護者の方の忌憚の無いご意見をいただければと思います。

委員長 他にいかがでしょうか。

副委員長 人数が少なくなり活動する部も少なくなっていると聞くと残念な気がします。

委員長 他にいかがでしょうか。今日決めなければいけないわけではないが、新校舎の建設設計上早い方が良いと思われれます。保護者の方の意見も伺いたいのので他の集まりなどで協議していただき、次回の会議で方向を決定できればと思います。特にご意見が無ければそのように進めさせていただきます。

それでは次に第2号議題「専門部会検討状況の協議について」。

事務局 各専門部会で協議されている中でこの検討委員会としての判断を仰ぎたい案件があれば発言をお願いします。

通学支援 要望ですが小学生中学生が同時に乗る場合、現状ある2台では乗り切れないので大型バスを準備していただきたい。

事務局 只今の要望については教育委員会の中で十分検討していきたい。

委員長 他には何かありますか。

委員 専門部会では小中一貫校ではなく、まずは小学校の統合だけを考えて話し合っていくのですか。

委員長 今のところはそうですが校歌校章部会では一貫校についても考えているとのこと。やはりここである程度の方向性を出せたらいいと思います。

委員 今までのことは決定事項にしなければ振り出しに戻ってしまう。

校歌校章 方向性が決まらなければ専門部会で公募の準備も出来ない。いつまでに方向性を出せればいいですか。

- 事務局 9月までに皆さんのご意見が集約出来たらありがたいと思っています。
- 委員 確かに方向性を示さなければ決まらない事が多い。富山小学校は24年度から始まるので23年度中に全て決めなくてはいけない。実際に子供達の保護者がどんな考えかが一番ウエートが大きい。だから保護者に話し合いの場を設けてもらい意見が集約出来たら検討委員会を開き9月までに方向性を示していきたいと思う。
- 教育長 この検討委員会でご意見いただいて方向性が出た後は教育委員会の責任で地区の説明会はやります。根底となるこの検討委員会がどうなのか。反対ならば反対で小学校中学校別々なものを建てますし、そのような方向で学校を考えていかななくてはいけないと思います。皆様方の多くの意見を無視してまで進めようとは思いません。本当は検討委員会としてのご意見をいただきたい。
- 委員 今も吹奏楽部は他校と一緒に練習していると聞く、それが可能ならば他の部活も一緒に練習して県大会に出ることも可能ならば中学は地域に遠くないほうが良い。保護者の意見が大切だと思うので8月末までに意見を集約し調整していければと思う。
- 教育長 心配している事や疑問に思うことなどのご意見をいただければ方向性を決めていくには大変ありがたいと思う。
- 委員 結論は別として小中一緒に校舎を建てることは出来ないのか。
- 教育長 それは無理です。一貫性はあるがそれぞれの校長が学校の経営をしていくので会議室なども別にしていかなければならないと思いますので、全く別の建て方になると思っています。別々に建て後で一貫校にしようとしても効率の悪い面が出てくると思います。
- 委員 一貫校になった場合は小中学校共有の建物にするのですか。
- 事務局 現中学校の耐震調査の結果にもよるが同じ建物の方が効率は良い。
- 教育長 約束できないが思いとしては、現中学校の校舎が使えるにしても見た目は全く新しい校舎にして、子供達に新たに出発するぞという気持ちを持ってもらえるような学校にしたい。
- 委員 幼稚園も富山中の敷地内に建てるのですか。また、平群と岩井にある学童保育の場所をどこにするなどの見通しはついていきますか。
- 事務局 0歳児から小学校に入学するまでの乳幼児の教育、保育のあり方については一貫した考え方でやる事が大事であると考え、市全域について保健福祉部子育て支援課と連携し検討しています。例えば、三芳地区のように公立の幼稚園と公立の保育園しかない場合は共に同じ考え方で進めていくのは割と容易な地域と思いますが、富山地区の場合は公立幼稚園が岩井と平群にあり、保育園が平群に公立、岩井に私立があるという複雑な状況にある中で検討しています。今までと同じく富山幼稚園も富山小学校の敷地の中に寄り添う形で建てたい思

いはありますが公立私立の保育園も含めた中で新校舎を建築する際に幼稚園も一緒にやりますとお答え出来ないのが現状です。

学童保育につきましては、小学生の放課後の過ごし方についての支援のあり方になりますので、先程とは別の考え方で検討を進めております。

委員長 他にいかがでしょうか。今日決められればと思っておりましたが、PTAなどの集まりで協議していただいて来月に検討委員会を開催し協議していこうと思っておりますがいかがでしょうか。

委員 先程言ったとおり集会等で説明しても理解してもらえていない部分があるので教育委員会からも説明してもらいたい。今の幼稚園生が一番関わってくると思うが何にも分からないまま8月までに結論出さなければいけないという部分が保護者の中で一番不安に思っている。

教育長 校長から小中一貫だとかこういう教育が展開できる。あるいは小規模校で小中別々ならこんなメリットがある、または限界があるなどの話をさせていただくことも良いと思う。

中学校長 資料に富山中学校と長狭学園の職員の定数の推移が載っていますが、私達が一番困っているのは教員の数が少ないこと。部活にしても男女別の会場で行うことが結構あり職員の数が足らなくなる。小中一貫にして3人増やしていただければこの問題は殆ど起こらなくて済む。また富山中学校は技術と家庭科の先生がいません。代わりに時間講師に教えてもらっているが授業が終わると帰ってしまうため情報交換が出来ない。職員が少ないことはネックだと思います。逆に職員数が多ければどのような事が出来るのか考えた場合、職員が多い分手厚い指導が子供達に出来ます。子供に対してすごくメリットがあると感じます。

しかし、私の中の不安は子供達の中で序列が出来てしまった場合きちんと配慮しなければならぬ。小中一貫校にする色々狙いがあった中で長狭学園の例だけではなく古くから一貫校を実施している広島市や呉市からデメリットを聞けば、予想も出来なかったことや改善策が聞けると思っています。

校長の立場として3年間よりは9年間で教育するほうが自分の思いを持った教育が出来る。また、この規模の良さはやりたいと思っただけで出来ることやこの規模だからこそ子供達が励まし合っていけることとと思っています。

委員 小学生も同じように部活をやるのか。

事務局 それは学校の体制で考えることが可能。長狭学園は5年生から部活動をやることを大きな目玉としていたが、現実的には日没の関係や体操などの特別練習で必ずしも毎日出来ませんでした。そこで基本的に朝練や土日に関しては希望で可能にしました。

委員長 他に何かありますか。

教育長 資料の長狭学園の教職員数をご覧いただきたい。小中合わせて300人の子

供に対しまして、教職員が33人配置されています。300人の子供達に対して正規の教職員が33人の体制でやれるという、これは色々な可能性を考えるとマンパワーが一番大きいと思います。現状的に富山中の正規の職員は何人ですか。

委員 教員9名とあと4名の13名です。

教育長 教職員の配置に関しましては、説明しましたがかなり手厚いものが出てきます。また、小中兼務ですので小中関係なく教えられるという状況も出てきます。次回となってしまう非常に残念ですが十分意見をいただきたいと思います。

委員長 他に質問がないようなら第3号議題「検討スケジュール及び次回の会議開催日程について」に参ります。事務局。

事務局 只今の協議の中でもあったが次回会議については8月の下旬を目安に考えたいと思います。具体的な日程については、事務局で調整し連絡したいと思います。それまでにそれぞれの団体での協議を進めていただけたらと思いますので宜しくお願いします。

委員長 次回会議を8月下旬予定でどうか。決定次第また連絡します。他にご意見が無ければ議事については以上で終わりにします。ご審議ありがとうございます。次に「その他」です。事務局何かありますか。

事務局 特にありません。

委員長 事務局から特に無いとのですが皆様方から何かありますか。

副委員長 校長先生に伺いたい。部活について他の学校と組んで参加することは出来るのか。

委員 夏の大会については出来ないが、新人戦については出来ます。

教育長 絶対数が減少してきているから部員の数が減るのは当然の話であって、ただ選択肢が少なくなってくることはありうると思う。

委員 減るのは仕方がないと思うが、小学校の時にバスケットや野球をクラブで一所懸命教わって、中学に行ったらその部が無いのはあまりにもかわいそう。

教育長 スポーツ少年団なども人数が少なくなってくると思いますので夏は野球で冬はサッカーをやるなどすみ分けていかないと維持出来なくなってくるのが安房地区の現実だと思います。

委員 唐突な考えですが、部活の面だけ南房総が一体となった部で大会に出場することは出来ないですか。

教育長 先程富山中の校長からも説明がありましたが中学校総体は合同チームでの参加は無理ですが、それ以外の新人戦などは大丈夫です。チームを強くするための統合チームではなく、大会に参加するためにいくつもの学校が集まらなくてはいけないという現実を県北の方に伝えていくことは課題だと思います。

委員 白浜中が校舎を建てたことにより10年間統合はないとの話の中でそれと同

じく小中一貫校になった場合、生徒数の減少による理由での統合は簡単に出来なくなるのではないか。

事務局 現時点で国の規定で10年という縛りがあります。

委員 富山地区で10年経つとかなり子供が少ないですが、それでもどこかと統合したり出来ないのか。

事務局 今後国の考え方が統合については補助金返還を免除するなど改正があればまた変わってきますが、規定である10年が短くなることは難しいと思います。

しかし、子供達に良いことであれば補助金を返して新たなものにしていくこともひとつの選択肢としてあります。必ずしも駄目ということではないと理解していただければと思います。あと、最低限10年間は富山地区に小学校中学校が残るということにもなります。

委員 子供が少ないのに残っても仕方が無い。他と統合した方が丁度良くなるのかななどの思いもあります。

副委員長 校歌のことに關しては、一貫校の校歌にするのか。それとも別々の校歌にするのか。

委員 長狭学園は正式には一緒ではないと話がありましたが校歌は別々ですか。

教育長 法律上あくまでも小学校と中学校は別のもので、形式的に普段の運用について一緒にしている。従って小学校を卒業する際は卒業証書を渡さなければならぬ基本的な規則はある。

委員 長狭学園はその中で校歌はひとつなのか。

事務局 先日、長狭学園に視察に行き、校歌のことを伺いましたところ小中学生同じものを歌うとのことでした。小学生も中学生も大変好きで毎日の清掃時は校歌を流して歌いながら清掃しているとのこと。聞かせてもいましたが大変違和感の無いきれいなメロディで、機会があれば皆さんも聞いていただければと思います。私も中学生には優しく、小学生には難しい校歌になってしまうと思っていたのですが全く違いました。

教育長 若い世代ですと富山中学校に上がり平群、岩井という意識はあまりなかったのではないか。

委員 僕らの中学校の時にはまだありました。しかし、高校へ行った時にそれを経験していたのが良かったのかと思う。また、先程の序列の話で前はクラス替えがあり新しい仲間を作る機会があったが、今度それも無いと9年間弱い子は堪らないだろうと思う。

教育長 それは一貫校とは別問題として。

委員 小中と仲間は代わらないわけですからね。

教育長 中学校を統合してクラス替えの出来る規模が良いとのことですか。

委員 やっぱり9年間同じは、ましては中学の3年間がきついと思う。

- 教育長 その問題を懸念すると中学校は学年2学級以上の学校を目指すために、富山地区も三芳地区も富浦地区もどこへでも行く覚悟を決めてもらわなければ中学校の統合は出来ない。自分の地区に来てくれるなら統合賛成では話にならない。
- 委員 だから以前の説明で小学校の統合後は中学校と認識の中15回の会議を重ね、16回目にいきなり富山地区は小中一貫との提案で親を含め皆すごく動揺している。統合の話が出た時に色々あった平群では、その文書で示された中で考えて小学校統合に賛成した。次は中学かと思っていたら中学は小中一貫で、富山だけですとなっていることが親の中でも理解できない。
- 委員 それは新校舎建設の話が出る前の説明であって、校舎を建設する事も新たに出だし、これは17回の会議の積み重ねの中で良い方向に変わってきたと思う。
- 委員 必ず定数を超えていなければ2クラスにしてはいけないのか。
- 委員 担任以外で貰える増置教員を使う事により2クラスに分ける事も可能です。その増置教員を多く貰えるのも小中一貫校のメリットです。
- 教育長 通常は1人です。去年の富山中で言えば3年生29人をその教員を使って2クラスに分けた事により36人いた2年生を分けることが出来なかった。市が教員1人雇うことも財政的に許されなかった。
- 委員 小中一貫校など特別な場合には県から多く加配教員を付けてもらえる。優先的に人を配置してもらえるメリットもある。
- それともうひとつ、一貫校になると全ての教員に兼務辞令が出ますので小学校教員でありながら中学校の何かの免許を持った教員を配置されています。それは教員にとって大変かもしれないが子供達にとっては良いと思います。
- 教育長 私が富山中にいた時に英語の教員を兼務発令で岩井小と平群小の5年生6年生の英語の時間に行かせました。車で行くのですが岩井小でも1時間では終わらず、中学の午前中の授業を空けて岩井小の2時間に当てるなどしていました。それが一貫校になり同じ敷地内でひとつの学校の中でやることは十分無理なく出来ると思う。先生方が大変だと言うが校舎が離れていることを思えば、大変なのは本来中学校2年3年しか教えないところを小学校5年6年も教えるための事前の準備が大変になるという意味です。
- 委員 方向性を出さなければいけないが、ここで全てを決めるわけにはいかない。集まる機会を持ち話し合った中でそれぞれが理解を示さなければ先には進まないと思う。
- 委員長 いろいろご審議ありがとうございました。
- 閉会